

ボランティア通信

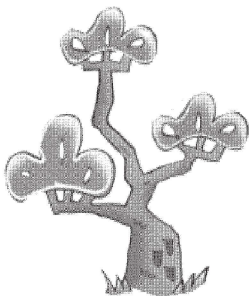
～松本中学校&老松中学校～

教師とのコミュニケーションー生徒たちを深く理解するために

情報システム創成学科 4年 野辺沼龍市

目次：

教師間のコミュニケーション
ー生徒たちを深く理解するために
情報システム創成学科
4年 野辺沼龍市
現場の雰囲気
経営工学科 3年 神代正太郎
私が社会科の授業で出来ること
自治行政学科3年 井上恵理
教育現場での気付き
人間科学科 3年 中村紅花
生の教育現場で感じたこと
人間科学科 3年 藤原 舜
これまでをふまえて
人間科学科 4年 大谷絵里



私は昨年の10月から松本中学校で数学のATをさせていただいています。昨年は生徒たちに自分の事を知ってもらおうと、生徒たちとの距離を縮められるように心がけていました。具体的には授業中の声掛けに気を付け、授業に支障がない程度にコミュニケーションをとって、これは今年も継続しています。休み時間も大事ですが、授業中が一番生徒の事を見ることができると感じています。週に一回のボランティアなので尚更、生徒と関わることは大事だと思います。担当の先生からも「もっと積極的に動いていいよ」、「もっと生徒のことを見てあげて」と言われたので、今年も生徒とのコミュニケーションを取ることは大切にしていきたいと思います。

今年の新しい目標は、担当の先生方とのコミュニケーションを積極的にとっていくことです。松本中学校は学生ボランティア用の活動記録を用意してくださっています。昨年は数学科はやっていなかったのですが、今年からは取り入れ、担当の先生と紙面上のコミュニケーションもすることになりました。活動記録を通して、授業中感じたことや、生徒の様子、私だったらこのような板書をするなどと言った意見や考えを伝えることができるようになりました。学校に着いたら、コメントを記入した活動記録を返却してくださるので、先生の考え方をすることもできます。今年度始まってから、数回しかATの活動ができていないので、これから数をこなしていく中で意見や考えを共有していきたいです。また、共有していくことで、気になる生徒について深く理解することができると思うので、ATとしての活動が今までより幅広くなると思います。生徒のことを一番考えた活動をするには、現場で生徒と関わっている先生方とのコミュニケーションが必要不可欠だと改めて感じました。

また、担当の先生から「先生の昨年とは違う動きに期待しています」と言われました。先生方から答えの丸付けや、解説をさせていただく機会も増え、より責任ある言動が必要になってきたと思います。生徒だけでなく、先生方からも信頼されるように今後も努めていきたいです。そして、近い将来、私が教壇に立つことを想定しながら、ATとしての最大限のサポートを生徒たちにしていけたらなと思います。

松本中学校の先生方は生徒に熱く寄り添っていて、見て学ぶことがたくさんあります。良いところを真似していくことで、私自身が成長していると感じることが多々あります。ボランティアをできるのも残り一年もありません。限られた時間の中で有意義な時間を過ごしていくために、見て学び、聞いて学び、実践して学び、反省して学べるような取り組みを通して、生徒たちと関わっていきたいと思っています。

現場の雰囲気

経営工学科 3年 神代正太郎

今年の4月から松本中学校で数学のATをさせていただいています。自分の場合は、母校でない松本中学校で来年の実習をさせていただくという形のもとでのボランティアです。ボランティアの内容としては、ほとんどは1年生の授業に参加していて、生徒が問題を解いている時間に机間巡視し、ついていけない生徒がいれば個別に対応しています。中学校に行くのは自分が中学生だったころ以来で、今回は「先生」として学校に行っています。これまで大学での講義のみで教師像というものを追ってきたわけですが、実際現場に行って学ぶもの、感じるものはすごく大きいと実感しています。まだ行きはじめて2ヶ月弱ですが、1年間を通じての目標は、このように学校現場、実際の授業を肌で感じ取っていくことです。

中学1年生というと、数学の勉強を始めたばかりでまだまだ専門的な知識はありません。したがって、数学の授業における「マイナス×マイナスはプラスになる。」や、「 $-y$ を $-1y$ とは書かない。」など、自分たちが当たり前として使っている数学のルールが生徒たちの当たり前ではないことにつまずくときがあります。生徒はこの間まで「算数」を習ってきているので、何も知らない状態が当然なのですが、大学でも数学をやっている自分の基準で、ある程度のレベルを求めてしまっている部分があるということを痛感しました。もっというならば、分数や少数の混ざった掛け算割り算ができない生徒というのは、実はクラスでも結構な割合でいます。そういう生徒たちに対して逆数の求め方やマイナスの数の存在など、自分が当たり前と思っていることを説明することの難しさというのも知りました。

また、実際に生徒と触れ合う中で感じたのは、やはり元気な生徒がいい意味でも悪い意味でも目に付くということです。どんどん話しかけてくれる生徒が特に1年生は多いので、その生徒たちのおかげ

で自分も早く松本中学校に慣れることができていますと感じています。しかし、授業中でも積極的に質問してくる生徒はだいたい決まっていて、ボランティアが終わった後に印象に残るのはその生徒たちであることが多いです。そんな中で、以前先生に言われた言葉は「今日は何人の生徒と会話をしましたか？」でした。やはり自分でも多くの生徒と関わろうと心がけてはいるのですが、会話のきっかけがつかめなかったり、話しかけてくれる生徒との会話が続きしまったりで、多くの生徒と会話するというのがなかなか実行できていません。そのため受けて最近では毎回のボランティアでクラスの何人と話す、という小さな目標を立てながらアシスタントをするように心がけています。また、先生と生徒が話しているところを見て、先生がどうやって生徒との距離を縮めているのかにも注目するようにしました。そこから1つ分かったことは、やはり生徒の好きなものに興味を示すと喜んでくれるということです。絵を描くのが好きな生徒だったら何を描いているのか聞いてみたり、読書が好きな生徒であれば本のお話で話しかけてみたり、すごく一般的で単純な方法ですが、中学生はとても純粋な反応を見せてくれます。まだまだ生徒とのコミュニケーションは手探りですが、自分なりの生徒とのかかわり方というものを今後も突き詰めていきたいです。

ボランティアを行っていく中で、日々課題や目標というものが見えてきています。担当の先生と話合って夏休み前に1日授業をやらせてもらおうという話もしていただきました。また、いずれは学級経営に携わってもらおうということも言われました。ボランティアとしての責任が今後ますます強くなっていくと思いますが、目の前の目標を一つずつこなしていく中で学校という場所、教師という存在を肌で感じられるボランティアにしていけたらと考えています。

私が社会科の授業で出来ること

法学部3年 井上恵理

昨年に引き続き、私は社会科のATとして毎週木曜日に松本中学校へ行かせていただいています。始めたばかりのころは、先生方はいったいどのようにして社会科の授業を進めているのか、という教科の指導方法を主に学んでいました。大学で初めての模擬授業を迎える時期だったので、多くを参考にさせていただきました。

昨年度は緊張のため、どうやって中学生と接したら良いか分からないということから、自分から話しかけることは殆どありませんでした。授業中も机間巡視ばかりで、友達同士で話している生徒や寝ている生徒を注意することはありましたが、それも非常に緊張して、注意すべきと感じたときの全てを注意できたわけではありませんでした。また、それ以外で話しかけることは生徒から質問されたら返すぐらいでした。その時の私は、生徒は分からなければ質問してくれるものと思い込み、質問できない生徒のことを考えられていませんでした。

ボランティア演習に出席し、他のATの話の聞いてみると、他の人は自分以上に生徒と接していて、自分から生徒へ質問がないか尋ねていると知りました。その時、私は今までの自分を恥じました。ATと言いながら、何も役に立っていなかった自分がとても恥ずかしくなりました。社会科は数学や英語と違って、生徒ができないと感じる部分が少ないから質問されないものだと思っていた自分をとても後悔しました。その後すぐのボランティアは、「自分が社会科の授業で出来ることは何か」を探すことを目標にしました。今までは指導方法ばかりに目が行って、生徒をしっかり見るが出来ていなかったのも、まず生徒一人一人を観察することから始めました。すると、地図の書き込みやプリントの色塗りや穴埋めなどで、必ず遅れる生徒が数人いることに気が付きました。同時に、そういった生徒たちは殆ど自分から質問し

ない(できない)こともわかりました。よって、私は遅れている生徒を積極的に探しそのサポートをするようにしました。このように、授業中サポートのために生徒へ話しかけることにより、サポート以外の、生徒への注意も以前より楽にできるようになりました。また、小テストの点数が良かったり、プリントを上手に塗ることができた生徒を褒めることもできるようになりました。

今後も積極的に生徒へ話しかけ、生徒を把握し、変化に気付けるようにになりたいです。そうすればその変化を担当の先生方に伝えることができ、更には自分の観察力を高めることにもつながられます。上記の様に、生徒へ話しかけているうちに少しずつ慣れていき、あまり授業に集中できていない生徒へ声をかけることが増えてきました。その中で、たまに生徒が授業に集中できる体勢に変えられないことがあります。しかし、そういった生徒は、担当の先生の言葉は受け入れて授業に取り組む場合もあります。それを見た時、私の声掛けと先生方の声掛けの違いは何なのか非常に気になりました。これからは、特に先生方はどのようにして、生徒が授業に向き直るような声のかけ方をしているのかを学んでいきたいです。



教育現場での気付き

人間科学科 3年 中村紅花

私は毎週金曜日の午前中、松本中学校で保健体育科のATをさせていただいています。今年の春から始めたのでまだ数回ほどしか伺っていませんが、学校の雰囲気や生徒たちはとても明るく、みんな私が声をかけるよりも早く元気な声で挨拶をしてくれて、毎回元気をもらっています。

活動内容は保健体育の授業の補助として、授業準備や後片付け、先生のサポート、体育が苦手な子の手助け、アドバイスなどを行っています。週に一度の午前中のみという短い時間ですが、先生・生徒たちから学ぶことは多く、とても勉強になっています。

私がATになってはじめて感じたのは、コミュニケーションの難しさと大切さです。授業を見学している中で先生が生徒たちと何気なく話したり、声をかけたりしている場面が多々あります。保健体育の授業では他の教科よりもこういった場面は多いと思います。私は先生方に習って生徒に声をかけたり、グループなどに入って話に加わるなど試みましたが、自分が思っているように話せず、伝えたいことをスムーズに伝えられないことに驚きました。なぜなら「自分はもっと上手に話せる、積極的にコミュニケーションをとれる」と頭で思っていたからです。この経験から、先生方への尊敬の念が一層深まりました。先生方が普通にとっているコミュニケーションでさえ、たぶん今の私では難しいです。これは経験を積んでいく中で慣れていくことかもしれません。また、生徒は何に関心があるのか、どうやったら興味を示してくれるのか、注意をひくにはどうすればいいかなど様々なことを考慮しながら指導をしているんだなと感じました。簡単な例を挙げると、二年生の器械体操の授業の時、なかなか話す内容に集中してくれない生徒たちの前で、先生がバック転を披露しました。すると一気に生徒たちは関心を持

ち、先生に視線を向けることができました。生徒たちは自分も先生のようにかっこよく技をきめたいと思ったのか、先生が説明するポイントや注意点などを真剣に聞いていました。高い運動能力を持っていた先生だからこそできたことかもしれませんが、とても参考になりました。また、生徒一人一人に話しかけるような感じで授業中巡回していて、生徒たちも自分に関心を持ってもらっていると感じて意欲的に頑張っていました。他にもあらゆる場面でコミュニケーションの重要性を実感し、コミュニケーションをとることから生まれる生徒との信頼関係やその信頼関係が作り出す授業の雰囲気など、様々なことに関連してくると感じました。

ATを始めてから、実際の教育現場でしか気付くことのできない問題や反省点を発見することができ、また、先生方からのアドバイスももらうことができ、とても為になります。自分にできることを増やせるように今後も積極的に取り組んで頑張っていきたいと思います。



生の教育現場で感じたこと

人間科学科 3年 藤原 舜

私は、今年の4月から毎週水曜日の午前中に松本中学校でATをさせていただいています。松本中学校では、主に保健体育科の授業と朝の学活を見させていただいています。ATをやりたいと思ったきっかけは、私が現在所属している教職系のゼミでの活動です。ゼミでは現在、指導案をつくり、実践するといったような授業づくりに取り組んでいます。しかし、授業を行ってみても、生徒役は大学生であり、授業に積極的に参加してくれるため、実際の授業とは雰囲気も少し違うのではないかと感じていました。そのような中で、生の教育現場ではどのような授業計画を立て、実際にどのように授業を進めているのか、生徒とどのようにコミュニケーションをとるのかなどといったノウハウを学びたいと感じたからです。

私はATを始める上で、私自身の目標として「生の教育現場を肌で感じ、生徒との距離感、授業づくりを学ぶ」ということを掲げました。実際に教育現場に行ってみて、教師と生徒の距離というもの、私が想像していた以上に近いと感じました。松本中学校の生徒は、すれ違う時や、授業前などでとても元気にあいさつをしてくれます。また、あいさつだけでなく、生徒が最近あった事について、話しかけてくるなどと授業に関係のないことでも、多くのコミュニケーションを取ることがあります。生徒との距離が近いということもあり、授業中はよい雰囲気で行えている反面、生徒同士がいつまでも話してしまうなどといったことも見受けられました。これを受けて、教師という立場に立った時に、メリハリのある授業を行うためには何が必要なのか、どのような工夫をしているのかなどといったことを今後もっと学びたいです。

また、授業においては、教師の立ち位置や、目の配り方、投げかけ方など、まだ2か月ほどしか行っていないのですが、多くのことが勉強となっています。今の時期の体育の授業では、陸上、器械体操の2種目を行っています。体育の授業では、常に怪我がつきもので

あり、どの種目においても危険が潜んでおり、未然に防ぐためにも、授業では様々な工夫や気配りが行われています。器械体操の授業を例に挙げてみると、教師の近くに跳び箱やハンドスプリングなどの大技を行うマットを配置し、教師自身は全体が見渡せる位置に立ち、その上でテストを行うといったものがありました。これは、怪我のトップ5に器械体操に関する跳び箱などいくつかのものが入っていることを理解した上で、テストもしつつ危険を未然に防ぐことができる体制をとっていました。

このように、授業内容のみならずまだまだ多くの学ぶべきことがあると感じました。今後のAT活動では、自分自身が授業を行うならどのような工夫をしていくのかなどといったことを常に考えながら行っていきたいです。



これまでをふまえて

人間科学科 4年 大谷絵里

今まで5回のボランティア活動に参加してきました。ただ、私がいるのはOSといわれる個別教室なのであまり生徒は来ません。よく来るR君と、1回だけ会ったS君しかわからないのですが、私が感じたことを書きたいと思います。

最初、R君は目も合わさず体の向きもそらしながら話をしていました。しかし、1回目の最後の方からは私と向き合って話してくれました。少し心を開いてくれたような気がして嬉しかったです。またR君は自分には少し障害があり、それを去年クラスの男の子達にいじられたりしていたことを話してくれました。それでも学校を休んだりせず学校に毎日来ていて、本当に強い子だと感動しました。嫌なことは誰にでもあり、そのせいで不登校になったり転校することなどはよく耳にします。ましてや、障害等は治せるものではありません。そのことをいじられたら、私だったら不登校になるかもしれません。R君は「お母さんが学校に行けと言うから」と話していましたが、それでも学校に毎日通うことができるR君は本当に頑張っていて、私はその話を聞いた時になんて声をかければいいのかわかりませんでした。どの言葉も軽いような気がして、私の気持ちが届かないような気がしました。その時は、「本当に頑張ってきたんだね」しか言えなく、今でもR君に私

の気持ちが届いていないような気がします。ただ今年度のはじめにクラス替えをした際に、R君をいじる男の子達が他のクラスになったので、今年からはだいぶ授業に出ているようで少し安心しています。

この学校の先生方は本当に優しく、生徒思いの人達ばかりなのだ実感しています。もちろんOSというクラスが存在もそうなのですが、R君がOSに来ていたという話を耳にすると様子を見にいらっしゃる先生がいらしたり、先生が生徒に廊下でよく声をかけてらしている光景を目にします。私の母校では、カウンセラー室はあってもOSのような教室がなく、先生が生徒に声をかける光景もあまり目にしませんでした。しかし、この老松中学校は先生の優しい声かけがあるので、生徒がのびのびして元気があるのだろーと思えました。



発行日:2014年7月23日

発行所:神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL:045-481-5661(内線4352)

FAX:045-413-4154

E-mail:jy-sp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL:http://www.kanagawa-u.ac.jp/
teacher_training_course/jy-sp/